



ロータリー2510地区月例報告 Vol.4

あけましておめでとうございます。早いもので2022年が終わっていた。留学期間も3分の1が過ぎて時間が過ぎる早さを痛感する。そろそろ修士論文のテーマを設定する必要がある、色々な文献を漁り、色々な人と話しているところだ。その度にLSHTMに在籍している方々の知見の広さと先見の明に驚かされ、自分も追いつけるように幾つかのスキルを上げていくよう行動変容しなければと感じる。

今回は、1学期の間で学んだことの一部を書いておこうとおもう。LGBTQと性感染症、特にMpox(サル痘)との繋がりについて面白かったので取り上げる。LGBTQはLesbian(女性同性愛者)、Gay(男性同性愛者)、Bisexual(両性愛者)、Transgender(性自認が出生時に割り当てられた性別と異なる人)、Queer or Questioning(自分の性が特定の枠に属さない人)の頭文字を取った言葉だ。性を捉えるときの視点は幾つかある。例えば、性自認は自分の性別をどのように意識しているかを指し、性的指向は恋愛や性愛の対象がどの性別に向くか、性表現は社会的にどのような性別を表現するか振る舞うか、などを表す。LGBTQは性自認、性的指向、性表現の観点が混在している用語なので注意が必要だ。実社会で性別の区別を細かく分類している事例で有名なのはFacebookだ。アメリカ版のFacebookでは性別の欄で58種類の選択肢が存在している。また、僕はロンドンでの家を探すときに、Facebookで自己紹介をする機会があったが、そのときに自分のことをhe/him, she/her, they/themのうち、どの代名詞を使って自分のことを呼んで欲しいか相手に伝える。they/themは男性でも女性にも属さないと考えている人たちを指すための3人称である。こう書くと欧米でのLGBTQの受け入れは幅広く進んでいるかと思われるが、中にはポーランドのようにLGBTフリーゾーン(LGBT排除地域)がポーランド国内の16県中5県で制定されるほど(後に撤回されたが)LGBTに対して厳しい地域や国も未だ存在していることに留意する必要がある。

研究の分野でも、対象者の性はどんな側面を指しているか明確にしようという動きがある。社会医学の分野では、sexと書いたら生物学的な性別、すなわち身体の特徴に焦点を当てた性別を意味する言葉として使われ、genderと書いたら社会的な側面の性を捉えようとし、性自認の側面を意味する。更に、性感染症の分野では、性行動に焦点を当てた分類をしていく。異性愛の人たちで、異性と性交をする人たちはMen Sex with Women (MSW), Women Sex with Men (WSM)と表現する。同性愛の場合は、Men Sex with Men (MSM)やWomen Sex with Women (WSW)とする。また、Transgender women(女性の身体的特徴を持ち、男性の性自認を持つ人)と性交をする男性は、Men Sex with Transgender Women (MSTW)と表されたりする。

ちなみにこの区分にしたときに特徴的なことは、MSMの人たち(一般的にGay)とWSWの人たち(一般的にレズ)の人たちの性行動の違いだ。進化生物学的には、男性は種の保全のために多くの女性と関係を結ぼうとし、男性の浮気は本能によるものだという主張がなされる。一方で、女性は自分の身体で次世代の種を残すため、自分を守ってくれる人を選ぶような行動を取る。これは、MSMとWSWでの性行動の違いにも部分的に反映されていると考えられる。MSMの人は発展場などが生まれるほど、多くの男性同士で性行為をする傾向がある。一方、WSWの人たちはお互い一人の女性を大切にしている関係性のことが多い。

長々と性の区分について話してきたが、この区分がWHOがサル痘から命名し直したMpoxの感染動態の理解に重要になってくる。性感染症の広がり、性行為の人数や頻度と相関する。そのため、MSMは性行為を行う人数や頻度という傾向があるため、一般的に性感染症は広がりやすい。現在、世界的にMpoxの流行は終息に向かっているが、この一因としてMSMの集団くらいに性感染症が広がりやすい集団でないと流行を維持できないという仮説が唱えられている。更に、Mpoxは男性に比べて女性の感染割合が圧倒的に少ないが、その少ない女性の感染者うち、半数前後がTransgenderの女性であることが分かっている。ある研究によると

Transgenderの女性とその相手の集団(MSTW)と、MSMの集団は別物だと言われている。しかし、Mpoxが流入していることを考えると、一般集団と比較してその2つの集団の結びつきは相対的に強いと考えられる。

まとめると、Mpoxは関係人数や頻度が高い傾向の集団であるMSMや、そのコミュニティと距離が近いTransgenderの女性までしか伝播が維持出来ないような性質がある感染症であることが示唆されている。また、このような傾向を調べるためには、研究領域においても単純な生物学的な性にだけ着目するのではなく、LGBTQ、性自認、性的指向を細かく分類して研究を行わない限り、重要な要因を見逃してしまう可能性がある。そのため、性感染症の制御という側面でもLGBTQの概念が一般社会に浸透し、理解を促進していくことには大きなメリットがあると考えられる。

さて、私生活に関してはロンドンでの初めての年末だったが、高校のときの知人のカップルが1年掛けた世界一周旅行を敢行しており、ロンドンで年を越すため1週間程、僕の家滞りしてしていた。5人のシェアハウスの一室を3人で過ごすという狭苦しい環境で過ごした。しかし、日本語という母国語で笑いながら一緒に夜ご飯を食べるとするのは非常に貴重に感じた。留学してから3ヶ月しか経っていないが、既にノスタルジーが沸き起こっているのを自覚する。新年は自室に籠もって居たが、家の近くで花火が打ち上げられており、新年では至るところで花火が打ち上げられるのだなぁと感心した。



写真1. 雪が積もったフラットの庭